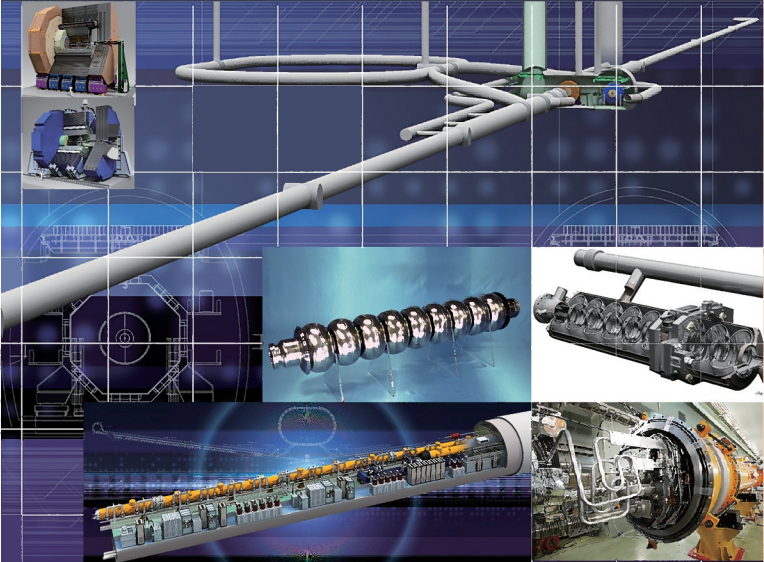
充たす国内最大級の花崗岩層が、北上山地に広がっています。

東北にやって来い！世紀の国際リニアコライダー。

東日本大震災から、もうすぐ２年が過ぎようとしています。東北の人々は、今日も厳しい現実と向きあい、粘り強く復興の途を歩みながら、将来へ夢と希望をつなぐビジョンを待ちわびていらっしゃることと思います。

ILC がこの東北にやって来たら、どんなことが起こるのでしょうか。まず国内外から第一線の研究者や技術者が、東北に移住することになります。もちろんその家族も一緒にやってくることでしょう。それに伴い、教育や医療福祉などの住環境も、世界トップレベルの水準に整備されることになります。
最先端技術の粋を結集した ILC のまわりには、その建設維持に携わる人々だけでなく、関連する様々な技術の革新を担う、各国の企業や新進のベンチャープロジェクトが集まります。欧米にはすでに存在する、そういった知的産業を中核とした国際都市がこの東北に、日本で初めてつくられることになるのです。

あまりに突拍子もない計画なので、現実離れしたおとぎ話だと思われるかもしれません。実際私も、専門家の方々のお話を伺い、ILC について詳しく教えていただくまでは半信半疑だったのです。でも、これはおとぎ話ではありません。現実の話なのです。

来たる年、誘致が決定され、順調に着工となれば、ILC が完成する１２年後には今回私が見学した小中学校の子どもたちも立派に成人し、そのなかから分野をリードする優秀な研究者が生まれるかもしれません。そしてこの東北の地で、物質の根源や、宇宙誕生の謎が解き明かされ、人類の知の地平が押し広げられることになるのです。

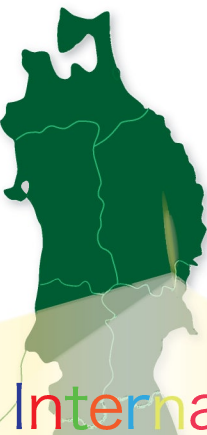
ILC が東北に雇用と経済効果をもたらすことは間違いありませんが、これは日本経済にとっても、また知的分野で再び立国していくであろう日本の未来にとっても、鍵となる重要な計画です。

私は一日本人として、ILC の東北への誘致が実現することを心から願っています。
困難を経験した東北だからこそ、これからの日本を牽引するにふさわしい逞しい人材が育っている。東北ならできる。東北だからこそできる。私は、そう信じています。

近衛 はな
女優。脚本家。詩人。東京都出身。青山学院大学卒業。外務省によりロシアへ研修派遣。フランスへ留学。CSP 国際会議参加。国際連合大学での職歴を持つ。NHK 教育番組司会者でTV デビュー。代表作は、NH『ドラマスペシャル / 白洲次郎』『ドラマ / 新・遠野物語』（ともに脚本）。主演映画『獄（ひとや）に咲く花』ほか。

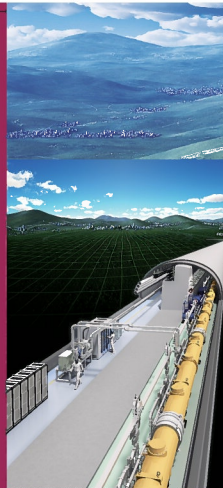
近衛 はな＠MURONE mountain

東北ビッグバン

私はいま、春の到来を待つ、
北上山地に立っています。
この地下１００mの盤石な花崗岩層に、
全長３１km から５０km にわたって
世界最先端の素粒子実験施設
「国際リニアコライダー」（ILC）を
建設しようという計画があります。
その誘致にむけて
これまで地道な運動が続けられてきたこと。
そして素粒子研究が新たなる段階にはいったいま、
日本のリーダーシップと ILC の東北誘致に
世界中から期待が集まっているということ。
みなさんはご存じですか？
まさにいま、日本と東北の未来にとって
千載一遇のチャンスがめぐってきているのです。

International
Linear Collider

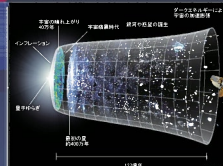
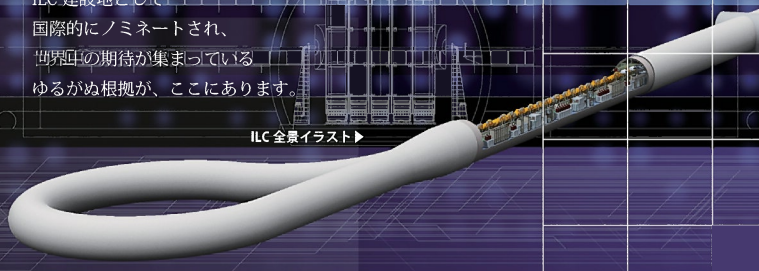
ILC の東北誘致を実現させよう！　東北 ILC 推進協議会

北上こそ ILC 立地。

ILC って、一言で言うと何でしょうか。
137 億年前に、原子核より小さいスケールから
いまも膨張を続ける宇宙の、最初の誕「ビッグバン」を
再現できる、超高精度高性能の実験施設です。
その規模、なんと全長 31 メートルから 50 メートル。
両端から放射した電子（−）と、陽電子（＋）を
ほぼ光速でぶつけ、＋と−でゼロに戻る際のエネルギーで
宇宙誕生の 1 兆分の 1 秒というミニチュアビッグバンを再現。
そのとき生まれる素粒子群をとらえて観測することで、
私たちの目に見えない素粒子や宇宙空間、
さらに謎の「ダークマター」
「ダークエネルギー」の正体へと迫ります。

宇宙誕生の謎を解く「リニアコライダー」。　その立地条件を

数 10 キロメートルも離れた地点から、
陽子〇個分という電子顕微鏡を超えたスモールスケールで
電子と陽電子を衝突させる以上、
設計建築には、超難度の新技術が数々求められます。
そして建設地の地盤も、微動だにしない
盤石の地質が絶対条件となります。
国内最長・最大規模の花崗岩層が
50 メートルにもわたって広がる北上山地が、
ILC 建設地として
国際的にノミネートされ、
世界中の期待が集まっている
ゆるがぬ根拠が、ここにあります。

▲ビッグバンからの宇宙の歴史

ILC 全景イラスト▶

白亜紀のマグマが固まった。
堅さと長さを誇る花崗岩層。
流出から、流入へ。
ILC 誘致で集まる、人、企業。
経済波及効果予測 4.3 兆円
雇用推定 ２５万人
多国籍ハピネス。
日本初の本格的国際タウン。
宇宙へ、細胞へ、エネルギーへ。
東北のビジョンと子ども達の夢と。
Magma
KITAKAMI Mountains
Granite Bed
3.11は、
図らずも
北上山地の
花崗岩の盤石さを
あらためて後世に
証明しました。
マグニチュード９という最大級の
猛威にも、北上山地に建つ施設は
被害を被りませんでした。さらに
裾野に広がる名所旧跡、なかでも
震災後に、世界遺産に認定された
平泉では、中尊寺や毛越寺をはじ
めとして中世からの名刹は、北上
こそ ILC 建設にふさわしいと諭す
ように、今も静かな佇まいです。
人。
才能。
技術、企業。
財が
ILCのまわりに
集まり始めます。
ひとたび ILC の誘致が実現されれば、
国内はもとより、世界中から ILC を
建設する加速器専門家、各種技術者
やメーカーが東北に集まってきます。
そこには、労働力のニーズが生まれ、
他国他県からも人が押し寄せるはず。
人工流出問題を抱えた東北にとって、
ILC は、知財、人材、投資を集める
求心力となるソリューションです。
最先端を共有。
未来へ連帯。
文化の違いを
尊重する
研究者たちが
街を形成します。
たとえばノーベル賞クラスの優秀な
才能達が、カフェで熱くディベート。
しばしば、文化や人種や国境を越え、
同じ目的のために共同研究。ときに
は家族ぐるみ交流。各種イベントも。
都市のインフラとして、新交通網や
環境システム、新世代通信システム
が整備され、大学、病院、銀行、学
校や保育・介護施設等が完備します。
ILC研究は、
ミクロとマクロ、
全フィールドで
天才的な
仕事を支え、
天才も育てます。
ILC の建設や、そこでの研究を通じて、
様々な分野進化での進化が起こります。
物理学、数学はもちろん、材料工学や、
遺伝子工学、医療創薬、スーパーコン
ピュータや計量計測器、情報通信、建
築など、数えきれません。社会全体に、
将来への展望が生まれ、今の子ども達、
これから生まれる新しい命にとっての
夢や可能性を提供してくれるでしょう。